

2

“かいわい”の景観づくり

“かいわい”としてのまとまりのある景観は、そこに住む一人ひとりの努力と、みんなの協力とによって、はじめてつくりあげられるものです。建物を建てる時、そして街なみをつくるときの心づかいや協力のための手掛りについて考えてみます。

建物を建てる時

建物には、住宅、商店、事務所、工場、公共建築、そして、それに付随する工作物などがあります。ここでは、それらの建物を建てる際に配慮すべき共通の事項についてふれます。

◆ 1. 入口を工夫する

建物の入口はそこを訪れる人や道行く人びとの目につきやすいところです。門扉などふくめて入口部分をデザインする際に、入口を後退させたり、そのまわりに植栽をするなどの工夫によって親しみやすい建物となり、うるおいとゆとりのある景観をつくりだすことができるでしょう。



入口のまわりに植栽するとうるおいやゆとりの景観ができる。



入口を後退させると親しみやすい建物になる。

◆ 2. ベランダやバルコニーに工夫する

ベランダやバルコニーのある建物では、それらの形やデザインは景観づくりのうえで重要な役割をはたします。そのため、形やデザインには配慮が必要ですし、また、洗濯物などについても道行く人々に対するの景観的な配慮が必要です。



ベランダのデザインにリズムをつけ、鉢植を置くなどの工夫がしてある。



ベランダのデザインにアクセントをつける。

◆ 3. 外壁の仕上げを考える

外壁のデザインや仕上げは周囲の景観に大きな影響を与えます。景観を損ねるような過剰な装飾や色彩はできるだけ避け、材料や色彩などを決めるに当たっては、周囲の地域性を考えていきましょう。また建物に付随するガス・水道などのメーター類や郵便受けなどにもデザイン上、配慮が必要です。



周囲の環境を考えて外壁の仕上げを選ぶ。
これはガラスで軽快なイメージをつくる例。



これはレンガタイルで重厚なイメージをつくる例。

◆ 4. 建物の形を考える

建物の形態の中に圧迫感を和らげ、親しみのある景観をつくり出すために、建物の形状を曲線にするなど様々な工夫が考えられます。また、屋根についても水平な屋根だけでなく、三角屋根やその他の様々な形があります。周囲との調和にも配慮しながら建物全体の形状に配慮をしたいものです。



屋根は建物の形に大きな影響を与える。



曲線にすると親しみのある感じを与える。

◆ 5. 車庫を考える

建物を建てる時には、自家用や業務用の車庫を設けることは必要なことでしょう。その場合建物の規模によって建物内部に設置する場合と、外部に設置場合があります。建物の内部に車庫をつくる場合には、シャッター等により景観をくずさないように配慮する必要があります。また、敷地内にオープンな車庫を設ける場合にはその周りを緑化するなど落ち着いた景観づくりに配慮しましょう。



緑化により落ち着いた景観となっている。



シャッターで目隠ししたりせずに建物全体のデザインと調和している。

◆ 6. ゴミ置場や自転車置場を工夫する

ゴミ置場や自転車置場などは、外部から直接人の目に触れないように工夫しましょう。ゴミ置場などは建物と一体的にデザインしたり、自転車置場にも植栽や塀などで目立たなくするなどの工夫がほしいものです。



ゴミ置場は建物と一体的にデザインし、人の目にふれないようにする。



自転車置場は植栽やカバーで目立たなくする。

◆ 7. 設備機器類の配置を工夫する

建物の外部に露出した屋上の貯水槽や冷暖房の室外機などの設備機器類は、景観を損ねる要因となります。外部から直接見えないような配置を考え、さらに建物と違和感のないようなデザインの工夫をしましょう。



設備機器類を建物に合わせた囲いに納めた例。



屋上にある設備機器類を囲って直接見えないようにした例。

◆ 8. 緑化を進める

緑豊かな景観は、人々にやすらぎと潤いを感じさせます。そのためには、敷地境界の生け垣化や屋上の緑化など、できることから緑化を進めていくことが大切です。



生け垣により緑化してある。



ベランダや屋上を緑化してある。

◆ 9. 公開空地を生かす

公開空地を設けるような大規模建築をつくる場合には、その空地を景観づくりに生かしていく必要があります。そのために、公開空地の設計にあっては、建物の外壁や歩道の材料との調和に配慮し、その規模や形によっては緑化だけでなく、水を取り入れることも考えられるでしょう。



建物の外壁と歩道の材料を調和させた公開空地。



外壁と合わせて公開空地の表面を仕上げ植樹した例。

住宅

住宅は、日常の生活に最も身近な建物です。区民一人ひとりが住宅を建てる際、個人でできる身近な景観づくりと意識することによって、良好な住宅地の雰囲気やたたずまいがつけられていくことでしょう。

◆ 1. 柵や塀に工夫する

柵や塀をつくる場合には、生け垣とすることが考えられます。生け垣にしない場合でもそこに使用する材料に配慮して、うるおいのあるたたずまいをつくりだす工夫が大切です。



板塀や竹垣により、うるおいのあるたたずまいとなっている。



オープンな柵にして庭を外に見えるようにし、うるおいのあるたたずまいとなっている。

◆ 2. 建物の色彩を工夫する

住宅ひとつひとつから受ける感じは、その屋根や外壁につかう材質、色彩によって大きく左右されます。地域の雰囲気にあった材料、色彩を選ぶなど、落ち着いた親しみのある雰囲気づくりに配慮しましょう。



屋根にアクセントとなる色彩を使う。



周囲に合う色を考える。

◆ 3. 車庫（駐車場）のデザインを考える

住宅の車庫を設ける場合には、出来るだけ目立たない場所に設ける工夫をしながら、シャッターなどが住宅地の雰囲気をこわさないように質の良い材料や色彩を考えて、落ち着いたたたずまいとなるよう配慮をしましょう。また、マンションなどの共同住宅の場合には、自動車台数が多くなることから、特にこの点についての配慮が必要でしょう。



駐車場を門扉のデザインに合わせて住宅全体のたたずまいをつくり出す。



駐車場をきれいにし、住宅の雰囲気をこわさないようにする。

商店

商店では、それぞれ業種によって店がまえが違ってきます。お客さまにとっての魅力的な店づくりには、建物のデザインがたいへん重要な役割をもつので、それぞれのお店の個性を生かし、あわせて周囲の景観にも配慮した店がまえをつくる必要があります。

◆ 1. 店頭をデザインする

店頭をどうデザインするかは、お店の業種や性格によっても異なり、それぞれ個性的な表情をもつことが要請されます。そのような個々の工夫が街なみの賑わいを生みだしますが、全体のまとまりや一体感への影響にも配慮しなければなりません。形状や材質、色彩などに工夫をすることはもちろんですが、閉店後でもシャッターや照明に工夫するなど、道行く人びとが明るく華やいだ雰囲気を感じられるような配慮が欲しいものです。



店内が明るくみえるように店のデザインをする。



店頭に賑わいをもたせ、活気のある雰囲気づくりをする。

◆ 2. 店内を演出する

店頭をデザインすることは、そのまま店内を演出することにつながります。来客を店頭から店内へ導き入れるための演出や、店内の雰囲気づくりが店頭のデザイン同様に重要となります。業種や業態によっては、店内に並べられた商店がそのままショーウィンドーの役割りをする場合や、表から店内の様子が見渡せるような工夫が大切な場合もあります。店内の演出が、街に彩りと賑いをもたらすことも考えたいものです。



内部がよく見えるお店は街に活気を与える。



店からの明かりは街を楽しい雰囲気にする。

◆ 3. 看板のデザインに配慮する

商店にとって看板等は重要な役割を果たします。しかし、目につきやすいものはややもすると奇抜さだけが強調されて、形や色彩などによっては、かえってマイナスの効果となる場合があります。建築のデザインと合わせて、できるだけシンプルですっきりとしたわかりやすいデザインにすることが良好な街なみをつくるうえでも大切なこととなります。



シンプルですっきりしたわかりやすいデザイン。

◆ 4. 囲まれた空間をつくる

商店の業種や規模によっては建物の一部あるいは全部を道路から後退させて、お店の前に小さな広場をつくるなど、囲まれた空間をつくることで、お店の入りやすさや店内に落ち着いた雰囲気演出することが考えられます。それは街の景観にとっても変化を生みだし、あるいは、圧迫感を取り除くなどの効果もあると考えられます。



入りやすい落ち着いた雰囲気を持つ空間となっている。



建物を後ろへ下げ、囲われた空間を設けて店に入りやすくする。

◆ 5. まちかどの商店を工夫する

まちかどにある商店は、特に目立つ場所にあるということで、商業上、景観上、特別な意味を持っています。商店街の性格や建物の大きさによっては、例えば1階にカフェテラス、2階にレストランなどを設けるのに有利な場合も考えられますが、どのような業種にしても商店街におけるアクセントとなり、賑わいもつくりだす魅力的な場所であるだけに、周辺への効果も考えた特別な配慮が必要でしょう。



目立つ角地の建物を開放的なデザインとし、賑わいをつくり出す。

1階・2階をカフェテラスにしてまちかどに賑わいをもたらす。

事務所ビル

事務所ビルは、街の景観にとって大きな影響を及ぼします。かいわいのよい目印になる可能性をもつ一方で、暖かみのある街の景観をそこねる可能性ももっています。事務所ビルを建てる場合には、そういった効果に配慮する必要があるでしょう。

◆ 1. 親しみやすいファサードをつくる

ファサード（建物の正面）は通りを構成し、景観上重要な建物の顔にあたるものです。その地域の街なみに調和したデザイン、材質、色彩に配慮しましょう。そうすると業務が終わった後でも道行く人に明るい雰囲気を与えてくれ、夜でも賑わいを感じさせてくれるでしょう。



材質や色彩に工夫して明るい雰囲気にする。



やわらかい曲線で親しみやすいファサードにする。

◆ 2. 低層部をデザインする

低層部についてはとくに外壁の素材やデザインに配慮し、必要に応じて1階部分を店舗にしたり、あるいは一部を歩行者に開放したり、全部を開放するなど街なみ全体を考慮するデザインをすると賑わいのある空間が生まれるでしょう。



低層部の素材やデザインを工夫して、1階部分に街なみとの調和を生んでいる。



1階を店舗にし、一部を歩行者に開放すると賑わいのある空間が生まれる。

◆ 3. 駐車場の配置を工夫する

駐車場は街の景観をこわさないように配置するとともに地下等に駐車場を設ける場合にも、その出入口の位置については考慮する必要があります。そのうえで、車路となる路面の舗装や駐車するスペースの周辺に目かくし効果のある緑化をすることを考える必要があります。



屋外の駐車場を設ける際は、目かくしとしての緑化を考える。



地下駐車場への出入口の位置とそのまわりのデザインに配慮する。

◆ 4. 街なみに配慮した建物の形を考える

事務所ビルの中でも、特に大規模な場合には、周辺への圧迫感や違和感がないようにするための配慮が大切です。敷地内の建物の配置や建物全体の色調はもちろん、建物の棟を分けるとか、低層部と高層部の仕上げに変化をもたせるとかの工夫も含めて検討することが必要です。



街なみに配慮して建物のかたちを考える。



低層部と高層部の仕上げに変化をもたせ、スケール感を抑える。

◆ 5. 敷地内に広場をつくる

大規模な建築物を建てる場合には、公開の広場をつくり、街なみに緑とうるおいの空間をつくる工夫が望まれます。さらには建物低層部との利用もあわせてサンクンガーデン（周囲より低い広場）などを設けることを都市景観上考えてみることも必要でしょう。



街なみと一体になったサンクンガーデン。



建物に囲われた広場が街なみにやすらぎを与えている。



街なみと一体となった大規模建築の前の広場。



地区計画によってできた広場。

工場・倉庫

工場・倉庫はそれぞれの業種や経営規模によって、さまざまな大きさがありますが、建替えにあたっては、従業員の労働環境にも配慮した計画がされる必要があります。その際には単に工場の内部のことだけでなく、周辺の景観に対する影響にも考慮することが望まれます。

◆ 1. 中小規模工場のデザインに配慮する

北区内には中小規模工場が多く分布しています。中小規模工場は、建替えたり、改築する際に、建物の外装材や屋根材、塀の材料、色彩に配慮をすることにより、周囲にとけ込み、街なみとの調和を生むでしょう。伝統的な家内工業の中には路地に面した作業場をまちかどの博物館として、持続していくことが考えられるものもあります。



周辺の環境にとけ込むように外壁の仕上げ等に配慮している例。

◆ 2. 明るい色彩とする

工場・倉庫は、どちらかと言うと機能中心でつくられるものが多く、外壁がスレートの素地のままだったりします。工場等を建替えたり改築する際は、基調色は明るい薄い色にするなど、個性的でかつ美観的に配慮された工場となるように工夫する必要があります。



明るい色彩の工場。



明るい色彩の倉庫。

◆ 3. 大規模工場・倉庫等の形を工夫する

工場や倉庫のうち、とくに大規模な場合には、窓のない、巨大で無機質な外観が街の景観を大きく損ねる危険性をもっています。周辺に圧迫感を与えず、しかもできるだけ違和感のない建物とするために外壁や屋根の素材、色彩も考え合わせながら、形について検討することが必要となります。既存の工場・倉庫についても、こうした考え方を取り入れながら、景観づくりに生かしていく工夫が望まれます。



ガラス張りにより軽快で明るいイメージを持つ工場。



周囲に圧迫感や違和感を与えないように工夫された工場。

◆ 4. 大規模工場・倉庫等の敷地を緑化する

大規模な工場や倉庫などの敷地を緑化することは、それらの構内の環境を向上させると同時に、周辺の街なみにうるおいのある景観をつくり出す効果をもっています。既存の樹木を生かしながら適切な植栽を行い、外からも緑が見えるようにしたり、道路沿いの柵や塀を生け垣化するなどの工夫が大切になります。



道路沿いの柵を透過性の高いものにして生け垣化し、工場の周囲からも緑を楽しめるようにしてある三つの例。

公共建築

公共建築は、広く区民が利用するものです。したがって、利用のしやすさ、親しみのもてるデザインのほか、地域の人々が誇りに思い、様々な地域の広がりの中でシンボルとしての役割を果たす必要があります。そのため建築にあたっては、景観づくりに先導的な役割を果たすように努力しなければなりません。

◆ 1. 親しみやすいデザインにする

公共建築には、様々な種類がありますが、それらの本来の性格や機能に応じながら、人びとが広く利用する建築として親しみやすいデザインにする必要があります。例えば建物の前面をできるだけ開放感のあるデザインにし、前面に広場を設けることのできる場合には歩道と一体化するなどの工夫を積極的に行わなければなりません。



入口周辺に広場を設け、親しみやすいデザインとする。



前面に広場を設け歩道と一体化し、親しみのあるデザインとする。

◆ 2. 人にやさしい公共建築をつくる

公共建築は、お年寄りや障害をもつ人びともにも利用しやすく、みんなが一緒に利用できるものでなければなりません。そのためには、建物の床や敷地に段差をつくらないことや、スロープを設けることなど多くの工夫が必要ですが、それらが心豊かでのびやかな景観をつくり出すことになるように配慮する必要があります。



車椅子利用者のために入口まわりにスロープを設置する。

垂直移動の手段としてエレベーターを設置し、お年寄りや障害者にやさしい建築にする。

◆ 3. 緑化に工夫する

公共建築は、たとえ小規模なものであっても、まちかどの景観に目印をつくり彩りを添える大切な要素であり、また、そこを利用する人びとのシンボルとなり、オアシスともなるものです。建築のデザインにあたっては敷地内の広場や入口まわりに植栽したり花壇を設けることなどをあらかじめ組み込む配慮が大切になります。また、公園などを組み合わせることなども景観づくりの面から大切なことです。



来訪者にやすらぎを与えるよう、建物まわりに植栽する。



周辺を緑化して、うるおいを与える。

◆ 4. 大規模公共建築をランドマークにする

大規模な公共建築は、地域のシンボルとして、かつランドマークとして親しみがもて、誇りに思えるデザインであることが必要です。遠くから見た建物の姿の美しさと近づいて感じる建築としての質の高さが必要なことはもちろんですが、敷地内に、街にうるおいと活気をもたらす公開の空地を設けるなどの配慮をすることも大切です。



景観上の配慮をしたランドマークとしての大規模公共建築の四つの例。

工作物

街には建築物ではない様々な施設があります。例えば、建物の屋上にある水槽や道路にある独立した広告板、鉄塔や煙突のような工作物は遠くからでもよく目立ちます。それらについても景観づくりをしていく上で配慮していく必要があります。

◆ 1. 小さな工作物をととのえる

広告板のように宣伝効果を目的としたものや、屋上に置かれている小さな水槽などの小さな工作物を設置する際には、乱雑に置かないようにすることが大切です。材料や、色彩、配置に工夫しながら景観に配慮することが大切です。



高架水槽を目立たないように設置する。

◆ 2. 大きな工作物のデザインをする

鉄塔、煙突、高い建物の広告塔は街のどこからでも見えるランドマークとなる要素があります。そのため無造作な設置やそれら工作物の機能だけを考えたものは街の景観を損ねるだけのものになりかねません。形や色彩のデザインに工夫して、人びとに親しまれるように配慮する必要があります。



ランドマークとなっている鉄塔に色のグラデーションを付ける。



ランドマークとなる高い煙突のデザインに工夫する。

街なみをととのえるために

街なみをととのえるためには、それぞれのかいわいの特性を考えながら、地域みんなで協力し、共通のルールをつくり上げて取り組むことが重要です。ここではどんな地域にでも共通する事項についてふれます。

◆ 1. まとまりと調和のある街なみをつくる

個々の建築が個性を主張するあまり、周囲の景観を損ねてしまうようなことがあります。美しい街なみにおいては、単に建物が整然と並んでいるだけでなく、何らかの共通点を持っているものです。色彩やデザインをある程度統一したり、周囲の環境や建物を意識しつつ、外壁に変化をつけると、空間全体のまとまりと変化のある表情豊かな景観が演出できるでしょう。



ある程度高さと大きさの同じ建物が並んでいると全体としてまとまりが生まれる。



壁面線をあわせるなどすると、調和のある街が生まれる。

◆ 2. 既存の地形や樹木を生かす

北区の景観を大きく特徴づけているものに起伏に富んだ地形があります。まちづくりではこの景観上の魅力を最大限に生かしていかなければなりません。ことに崖線の緑はうるおいのあるランドマークとしてできる限り保全する必要があります。



北区の魅力である崖線の緑はできるだけ保全する。



起伏に富んだ地形を最大限生かして景観づくりをする。

◆ 3. 歴史的資源を景観づくりに活用する

北区には歴史を語る建造物や史跡が数多くあります。景観づくりにあたっては、街なみに彩りを添えている史跡、建造物を生かしていくことで地域の特性を高めていくことになります。



歴史的な建造物を景観づくりに生かす。



街なみに彩りをそえているものを活用し、地域の景観上の特徴をつくる。

◆ 4. スカイラインを演出する

建物の軒や屋根の形状が連坦してつくりだすスカイラインは、街なみのシルエットをつくりだし、その街のイメージを大きく左右します。すっきりとした統一感や快適なリズム感をつくりだすスカイラインを演出することは、たいへん重要な景観づくりのテーマです。



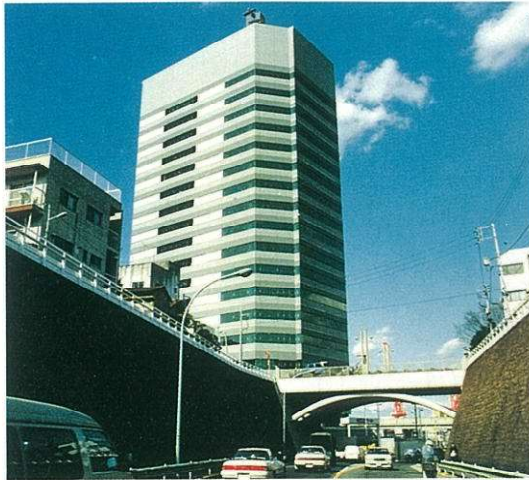
屋根のかたちでリズムのあるスカイラインが演出できる。



建物の高さや屋根のかたちを揃えると統一感のあるスカイラインが演出できる。

◆ 5. ランドマークをつくりだす

ランドマークとして崖線や歴史的建造物も大切ですが、北区の景観づくりにあたっては、それ以外にも新しいランドマークをつくる必要があります。そのため街なみの中にモニュメントを設置したり、代表的な高層建築物などを建てる場合には、それらが街なみにアクセントを与えられるランドマークとなるように考えていかなければなりません。



高層建築は街の目印となるのでデザイン上の配慮をする。



建物の前にある大木も目印となる。既存の樹木を生かしたデザインにする。



既存の独立して生えている大木も街の目印となるので保存していく。

住宅街

北区の住宅街は大きく、低中層住宅中心の地区、中高層住宅中心の地区、住工混在地区などに分けられます。それぞれの地区特性に合った良好な住環境を形成していくとともに、それにふさわしい住宅街の景観を創造していく必要があります。

◆ 1. 住宅街の形態をととのえる

住宅街の形態をととのえるには、通りに面した壁面線や屋根の形をそろえたり、色、材料をそろえるなど様々な要素についての統一感と調和をうまくバランスさせる必要があります。そのためには建築の協定や緑化についての協定の促進を進めていくことが景観の質を高めることになるでしょう。



住宅の壁面や高さをそろえたり樹木を保存したりし、全体の調和を保つようにする。



外壁の仕上げをそろえ住宅街の統一感を保つようにする。

◆ 2. 住宅街の緑化を進める

わが国の住宅街の緑は、敷地内の緑に大きく依存していることが多いので、保全するとともに、増やしていくことが大切です。また、道路の緑化によって、住宅街の緑を増やしていくことが望まれます。



住宅の緑があると街全体にうらおいが出る。



敷地内の緑をできるだけ外から見えるようにすると、住宅街としてのうらおいが生まれる。

商店街

商店街は、駅前の大きな商店街から日常の買物をするための商店街まで、様々な規模と性格をもっています。それぞれの商店街の特性に合わせた景観づくりをしていくことによって魅力を高め、買物客にも楽しく、活気にあふれた商店街にしていく必要があります。

◆ 1. 商店街の街なみに連続感をつくりだす

商店街の街なみに一体感・連続感を保つには、一軒一軒の商店がお互いに協力し合い、調和のとれた景観をつくっていくことが大切です。例えば、1階店舗部分の壁面を揃えたり、商品の陳列に配慮するなど、まとまりのある魅力的な商店街とする工夫が必要です。また、商店以外のビルが街なみに入ってくる場合は、1階を店舗にするなどの協定を結び、商店街としての連続性を保つ努力も大切です。



連続感のある街なみが商店街に活気を生みだす。



1階の軒高をそろえたりすると、まとまりのある快適な商業空間が作り出せる。



坂道をたくみに取り入れた商店街。

◆ 2. 商店街に賑わいをつくる

建物の前の空いたスペースや壁面等からくり時計やインフォメーションボード等を設置するなど、街のあちらこちらに人の視線を集める装置を置くと、歩行者に新鮮な話題を提供し、見る人を楽しませてくれるでしょう。また、ストリートファニチャーや店のディスプレイなどの組み合わせを工夫することで、街に活気や賑わいが生まれるでしょう。



歩行者の目を楽しませる装置があると、街に活気や賑わいが生まれる。



からくり時計のような小道具は人々をなごませてくれる。

◆ 3. 夜景を演出する

夜の商店街を賑やかに、そして華やかにするような雰囲気をつくることは大切なことです。街路灯や照明方法に工夫して、夜の商店街を演出しましょう。閉店後でも通りが真っ暗にならないような配慮も必要です。



夜の商店街を華やかに安全な通りにする。



グリルシャッターにして、お店の明かりで外を照らし、商店街の連続感を保っている。

◆ 4. 商店街に小さな広場をつくる

商店街の規模によっては、人のたまるような空間を用意することで、商店街全体の魅力を高めることが考えられます。適切な場所に配置され、魅力的にデザインされた小さな広場は、買物の途中の休憩にも待ち合わせにも活用され、時にはイベント広場としても利用されることが期待されます。



小さな広場は、休憩や待ち合わせに使われる。

◆ 5. 商店街の看板を工夫する

商店街での看板は個々の商店にとっても街全体にとってもたいへん大切なものですが、ややもすれば不統一になりやすく、かえって賑わいのある景観を損なう危険性もあります。看板の形や大きさを含めたデザインをみんなで考え、協定しながら賑わいを演出していく工夫が必要です。



共通の看板を使って、統一感を出す。



ひとつの建物において、看板を統一する。

◆ 6. 共同駐車場を設置する

駐車ビル・パーキングタワーなどを一体的に設置する場合には、賑わいをこわさないように適切な場所に設置しなければなりません。また、デザインに工夫するだけでなく1階部分に商店を設置するなど、商店街を分断しないようにする配慮が必要です。なお、買い物客用の自転車置場を設置する際にも商店のみなさんで協定するなど景観に配慮する必要があるでしょう。



デザインに工夫した駐車ビル。



車の動線をデザインに生かし、1階を店舗として賑わいをつくり出している。

◆ 7. 駅前商店街に個性的な魅力をつくる

駅前商店街の景観は、そこを訪ねる人びとにとって街の第一印象となる重要な役割をもっています。それぞれの駅前商店街が街の特性を生かして、個性的な魅力をつくりだすことが必要です。



駅前の特徴を表わしたスケール感やリズム感のある商店街をつくる。



個性的なモニュメントで買物を楽しめる賑わいのある商店街にする。

◆ 8. 近隣商店街に賑わいをつくる

近隣商店街では、商店が連続している景観が魅力と賑わいをつくりだすために必要であるといえます。そのため、道路の舗装に工夫をしたり、ストリートファニチャーなどを統一したりすることで、商店街に一体感を演出することが大切になります。



連続する商店街に賑わいが生じている四つの例。



業務街

事務所ビルが集中する業務街は、都市の中心的な場所を占めるだけに、その地域の景観の魅力を大きく左右するといえます。一方、業務街は建物の性格から暖かみに欠ける街になる傾向があります。業務街の計画にあたっては、風格のある街づくりと同時に活気が感じられる景観づくりが大切です。

◆ 1. 風格のある街をつくる

業務街は地域全体のランドマークとして、景観上重要な役割を果たします。北区の印象を高めるためにも、業務街を風格のある街にしていくことが望まれます。そのため、地区全体のスカイラインや形態に注意してデザインすると同時に、地区内や周辺の道路・広場あるいは公園にも配慮が必要です。



風格あるランドマークとしての業務街。



落ち着いたたたずまいの業務街



街全体に統一感をもたせ、風格を持たせる。

◆ 2. 文化性の高い活力あふれる街をつくる

業務街は地域の中心的な位置を占め、多くの人びとが働き、訪れるところでありながら、それだけでは魅力のある街にはなり得ない性格をもっています。街の魅力ある中心として生かして行くためには、文化性の高い施設の導入を図る必要があります。また、それに付随して近くに商業施設を取り入れることが考えられ、こうした複合化を進めることにより街に活力が生まれることでしょう。



人々が活動している街は活気がある安全な街になる。



まちかどにギャラリーを設けるなどし、文化を感じる街にする。

◆ 3. うるおいのある街をつくる

業務街は無機質な街なみになりがちです。そこに働く人だけでなく、通りを歩いている人びともやすらぎとうるおいの感じられる街をつくるのが大切でしょう。そのためには、人びとが歩き、立ち止まり、会話のはずむような公園・広場やピロティなどによる歩行者空間をつくる工夫が必要です。その結果、うるおいのある親しみやすい業務街となるでしょう。



業務街の一角に快適な歩行者空間をつくる。



人が集まる所には水や石、植栽でうるおいのある広場をつくる。

工場地

工場地は、工場施設をととのえて、工場地の全体的な統一感を創り出すことで、新たな北区の都市景観が形成されるでしょう。

◆ 1. 住工混在地を改善する

住工混在地は、北区に多く存在しています。工場は工場らしく、住宅は住宅らしくしながら、なおかつ、街なみとしての調和が図れるよう、形や素材についてみんなで協力して景観を改善していくことが必要でしょう。



住宅地内にある工場に植栽をする。



住宅と工場が混在する地域では建物のかたち、色など双方が共存できるよう配慮する。

◆ 2. 工場連坦地を緑化する

工場の連坦しているところでは、各工場が協調して一体的に緑化する、例えば建物の壁面を緑化するなど、景観的な連続性を確保しながらうおいのある街なみをつくっていくことが大切です。また、敷地内にも花壇や樹木を配するなど、やすらぎの場をつくり、そこで働く人に対しても細やかな心づかいを忘れないような気配りが大切です。



工場が協調して一体的に緑化すると、工場で働く人にもうおいを与える。



敷地内に樹木を配し、やすらぎを生みだしている。